大麦管理特報 ~第2号~

令和7年10月14日 黒東地域農業技術者協議会

大麦の収量・品質を高めるためには、健全な根づくりで年内の茎数を確保することが重要です。今後は、ほ場の排水対策や 追肥を的確に行い、越冬前の生育量を確保しましょう。

1 播種

播種が遅れている場合は、早急に 排水対策を行い、10月中に播種を 必ず終えましょう。

<播種時期ごとの播種量の目安>

播種時期	目標苗立数	播種量の目安(10a 当たり)	
	(m当たり)	ドリル播	表面散播
10 月中旬	200 本	8. 5 kg	9.0 kg
10 月下旬	230 本	1 O kg	

10月中旬以降は降雨日が多く、ほ場が乾かないことが懸念されます。 排水が悪くドリル播が困難な場合、ほ場によっては表面散播に切り替えましょう。 ※詳細は指導員までご相談ください。

[表面散播での作業の流れ]

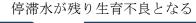
施 肥 ⇒ 耕 起 ⇒ 基幹排水溝設置 ⇒ 表面播種 <u>注)除草剤は播かない!</u>

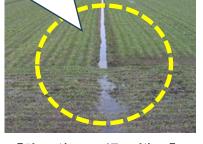
2 排水対策

排水口

- ① 降雨後はほ場を点検し、停滞水が残っている場合、 新たな溝を掘るなどして畝の表面に溜まる水を排 除しましょう。
- ② 排水溝が排水口まで連結されているかを再度確認し、 ほ場内に水が溜まらないように随時手直しましょう。







【降雨後のほ場の様子】

排水チェック & 手直し!

3 年内追肥 (分施体系のみ)

※追肥は11月中旬までを目途に遅れずに施用し、年内生育を確保する。

施肥時期	肥料名	施用量
播種1か月後	硫 安	20 kg/10a

注) 基肥にエコ大麦 44 号を使用した場合、追肥は必要ありません。

JAみな穂営農センター ℡ 74-2440 JAみな穂あさひ支店経済課 ℡ 83-3212 各地区担当営農指導員、 新川農林振興センター農業普及課 ℡ 52-0094